

処方せん医薬品<sup>注)</sup> 保存前血液の白血球除去用血液バッグシステム  
血液保存液A液 (生物学的製剤基準) 及び赤血球保存液MAP液

# セパセル インテグラ<sup>®</sup> MAP

## Sepacell Integra<sup>®</sup> MAP

貯 法: 直射日光をさけ、室温保存 (凍結させないこと)

使用期限: 外箱に表示

注 意: 【取扱上の注意】の項参照

注) 注意 - 医師等の処方せんにより使用すること

	200mL採血用	400mL採血用
承認番号	21100AMZ00749000	
薬価収載	薬価基準未収載	
販売開始	2002年7月	

### 【組成・性状】

#### \* 1. 組成

血液保存液A液及び赤血球保存液MAP液は、100mL中に下記の成分を含有する。

##### 血液保存液A液

成 分	W/V%
クエン酸ナトリウム水和物	2.20
クエン酸水和物	0.80
ブドウ糖	2.20

採血バッグ1袋中に本剤を30mL (200mL採血用) および60mL (400mL採血用) を含有する。

##### 赤血球保存液MAP液

成 分	W/V%
D-マンニトール	1.457
アデニン	0.014
リン酸二水素ナトリウム	0.094
クエン酸ナトリウム水和物	0.150
クエン酸水和物	0.020
ブドウ糖	0.721
塩化ナトリウム	0.497

MAPバッグ1袋中に本剤を50mL (200mL採血用) および95mL (400mL採血用) を含有する。

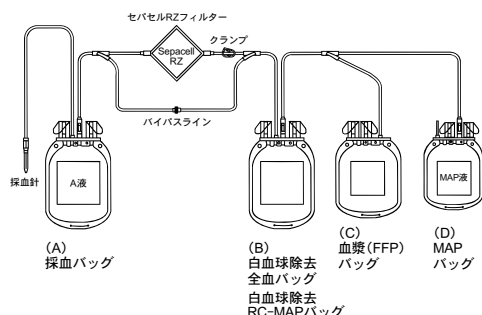
#### 2. 性状

	血液保存液A液	赤血球保存液MAP液
性 状	無色澄明～微黄色澄明な水溶液である	
pH	4.5～5.5	5.4～5.8
浸透圧比	約1 (生理食塩液に対する比)	

#### 3. 製剤的事項

本品の容器には、ポリ塩化ビニル (可塑剤: フタル酸ジ2-エチルヘキシル) を使用している。

#### \* <構造図>



上記規格は代表例である。

### 【効能又は効果】

血液保存及び赤血球成分の保存

### 【用法及び用量】

生物学的製剤基準 血液製剤総則 2 (1) 全血採血により採血バッグ (A液) に採血し、白血球除去用フィルターにて濾過した血液を遠心分離後、赤血球成分と本品の子バッグ内の液 (MAP液) を混和する。なお、採血量は200mL及び400mLとする。

### 【使用上の注意】

#### 製剤調製方法及び調製時の注意

##### 1. 製剤調製方法

###### (1) 準備・採血

1) 本品を滅菌袋から取り出す。

\* 2) 混注ポートおよびルーアーコネクターは、サンプル採取、輸液、輸血等に使用する。使用にあたっては無菌的に操作し、補液が採血バッグに入らないようにすること。また、混注ポートは、カバーフィルムを剥し、ルーアーコネクターは、先端のキャップを外して使用する。

3) 採血針キャップを外し、ドナーの静脈に穿刺する。

4) 採血を開始したら採血バッグ (A) 内のA液と血液を混和するために、市販の自動混合タイプ採血機の上に乗せるか、または手によって混和する。

5) セットに表示されている量を採血したら、通常の方法で採血を終了する。

###### (2) フィルター濾過による白血球除去

1) 採血後、採血バッグ (A) をよく混和する。

2) 採血バッグ (A) をイリガートル台に吊るし、採血バッグ (A) の連通ピースを開通する。

3) 落差により白血球除去フィルター (以下フィルター) 濾過する。

4) 採血バッグ (A) が空になったらフィルター下流のラインをクラップで止め、白血球除去全血バッグ (B) 内のエアをバイパスラインを通じて採血バッグ (A) へ押出す。

5) 白血球除去全血バッグ (B) 内のエアがなくなったら、クラップを外し、採血バッグ (A) へ押出したエアによりフィルター内の血液を回収する。

6) 採血バッグ (A) とフィルターをヒートシーラー等により分離切断する。

###### (3) 血液成分分離

1) 白血球除去全血バッグ (B) と共に血漿バッグ (C) とMAPバッグ (D) を遠心処理する。

2) 白血球除去全血バッグ (B) の連通ピースを開通する。

3) 上層に分離した血漿を血漿バッグ (C) に採取し、ヒートシーラー等により分離切断する。

4) MAPバッグ (D) の連通ピースを開通し、MAP液を白血球除去全血バッグ下層の濃厚赤血球に移してよく混和し、ヒートシーラー等により分離切断する。

#### 2. 調製時の注意

##### (1) 使用前の注意

1) 本品は医師の管理の下に使用すること。

2) 本品は採血した全血から白血球を除去し、血液製剤を調製することを目的とする。それ以外の目的には使用しないこと。

3) フィルター本体、回路およびバッグが破損していないか、採血針のキャップが外れていないか、滅菌袋が破損していないか。

ないか、また保存液漏れがないか確認すること。いずれの場合も異常が認められる場合には使用しないこと。

4) 本品は清潔な場所で滅菌袋から使用直前に取り出し、直ちに使用すること。

## (2) 使用中の注意

1) 採血中はドナーの状態を観察し、異常が認められる場合は直ちに中止すること。

2) バッグ等を切り離す場合は、チューブの切断個所の両端をヒートシーラー等の方法で密封すること。

3) 本品の使用中に、血液漏れ等の異常が発見された場合は、細菌混入のおそれがあるので直ちに使用を中止すること。

4) フィルター濾過は、予め血液をよく混和してから開始すること。

5) MAP液は、遠心分離により調製した濃厚赤血球にのみ入れられること。

6) 採血後、本品を用いて調製した血液製剤は、速やかに下記貯法にて保存すること。なお、MAP液を用いて調製した血液製剤は42日間保存できるが、細菌混入のおそれがある場合には使用しないこと。

《白血球除去したMAP加濃厚赤血球：白除RC-MAP》

2～6℃で貯蔵する。

《白血球除去した血漿：白除血漿》

-20℃以下で貯蔵する。

## 3. 重要な基本的注意

(1) フィルターを使用して血液製剤（血小板製剤、濃厚赤血球製剤）の輸血を行った際に、血圧低下、ショック等の重篤な症例が報告されている。

使用に際しては、急激な血圧低下、ショック等の重篤な症状の発生時に備え、あらかじめ救急処置のとれるよう準備しておくこと。また、輸血中は、患者の状態をよく観察し、発熱、悪寒、頭痛、関節痛、蕁麻疹、呼吸困難、血圧低下、ショック等の異常が認められた場合には、直ちに輸血を中止し適切な処置を行うこと。

アレルギーや過敏症の既往歴のある患者への使用は特に注意が必要である。

(2) 本品は可塑剤であるフタル酸ジ2-エチルヘキシルが溶出するおそれがあるので、注意すること。

(3) 使用中は本品の破損、接合部のゆるみ及び薬液漏れ等について、定期的に確認すること。<sup>1,2)</sup>

(4) 脂肪乳剤を含む医薬品、ヒマシ油等の油性成分、界面活性剤又はアルコール等の溶解補助剤などを含む医薬品を投与する場合及びアルコールを含む消毒剤を使用する場合は、コネクタのひび割れについて注意すること。

[薬液により延長チューブ等のコネクタにひび割れが生じ、血液及び薬液漏れ、空気混入の可能性がある。特に全身麻酔剤、昇圧剤、抗悪性腫瘍剤及び免疫抑制剤等の投与では、必要な投与量が確保されず患者への重篤な影響が生じる可能性がある。なお、ライン交換時の締め直し、過度な締め付け及び過度な増し締め等は、ひび割れの発生を助長する要因となる。]<sup>1,2)</sup>

(5) ひび割れが確認された場合は、直ちに新しい製品と交換すること。<sup>1,2)</sup>

## 4. 副作用<sup>3,4)</sup>

本品は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確になる調査を実施していない。

下記の副作用があらわれることがあるので観察を十分行い、副作用が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

	頻度不明
短時間大量投与	クエン酸による血中カルシウムイオン濃度の低下

## 5. 適用上の注意

カルシウム含有製剤と混和すると凝血をおこすおそれがあるため混合輸注はしないこと。

## 【臨床成績】

血液評価<sup>5)</sup>

本品で調製された白除RC-MAPおよび白除血漿の赤血球数、白血球数について、従来のRC-MAPおよび血漿を対照製剤として比較検討を行った。なお、対照製剤は白血球除去した製剤ではない。

各製剤の赤血球数および白血球数は以下のとおり。

赤血球製剤 (n=6、平均値)：

	白除RC-MAP	RC-MAP
赤血球数 (/バッグ)	$1.53 \times 10^{12}$	$1.59 \times 10^{12}$
白血球数 (/バッグ)	$2.05 \times 10^9$	$8.27 \times 10^8$

血漿製剤 (n=6、平均値)：

	白除血漿	血漿
白血球数 (/バッグ)	$1.48 \times 10^5$	$52.9 \times 10^5$

また、長期保存安定性試験（赤血球製剤：7週間保存、血漿製剤：1.1年間保存）の結果、調製した製剤は対照製剤と同等の安定性を示すことを確認した。<sup>6)</sup>

## 【取扱い上の注意】

1. 本品は滅菌済みで、1回限りの使い捨てである。再使用・再滅菌はしないこと。
2. 使用期限内でも包装を開封したものは速やかに使用すること。
3. 外観、内容物等に異常が認められた場合は使用しないこと。
4. 万一、保存液漏れ、その他の異常が認められた場合は使用しないこと。
5. 針キャップを開封する際は、針先が針カバーに触れないように注意すること。[針先が針キャップに触れると針先が変形し、穿刺しづらくなる場合がある。]
6. 血液バッグの塩化ビニル樹脂は、低温での物性が著しく低下し、破損する場合がありますので低温および凍結の状態での取扱いには十分注意すること。
7. 蒸気滅菌工程の水蒸気あるいはその後の熱処理のため、バッグが不透明になったり、空袋やチューブ内に微量の水分が残留することがあるが、使用上問題はない。ただし著しい水濡れや、内容液のリークが疑われる場合は使用しないこと。
8. 血液バッグを遠心する際、遠心カップ下部にチューブ・分岐管等を入れるとバッグを破損させることがあるので取扱いには十分注意すること。
9. 1～30℃の清潔な場所で保存すること。また、直射日光や水漏れのおそれのある場所や湿度の高い場所での保存はさけること。
10. 本品はプラスチック製品であるから、運搬、操作時には振動や衝撃を加えないように十分注意すること。
11. 使用済みの本品を廃棄する場合には、周囲の環境を汚染しないように注意すること。また、血液による感染を防ぐため、医療廃棄物として適正に処理すること。

## 【包装】

200mL採血用×20セット

400mL採血用×20セット

## 【主要文献及び文献請求先】

- 1) 日本医療器材工業会ポリカーボネート対応ワーキンググループ  
：ポリカーボネート製三方活栓のクラックに関する試験報告書  
1 (脂肪乳剤での試験結果)(2003)
- 2) 日本医療器材工業会ポリカーボネート対応ワーキンググループ  
：ポリカーボネート製三方活栓のクラックに関する試験報告書  
2 (脂肪乳剤を除く油性成分、溶解補助剤)(2003)
- 3) 宮尾秀樹 他：医療 36(6), 566(1982)
- 4) 湯浅晋治 他：外科治療 55(2), 191(1986)
- 5) 秋野光明 他：薬理と臨床 8(2), 119(1998)
- 6) 秋野光明 他：輸血学会誌 45, 241(1999)

\*\* 旭化成クラレメディカル株式会社

〒101-8101 東京都千代田区神田神保町1-105


TEL 03-3296-3770

販売元

**旭化成クラシメディカル株式会社**

東京都千代田区神田神保町1-105

\*製造販売元

 **川澄化学工業株式会社**

東京都港区港南2丁目1-5番2号 品川インターシティB棟